

# 教材 No.17 友達と恋愛、どっちが大事？

＜対象＞ 小学校高学年～中学校

＜関連する教科等＞

- ・道徳：友情、信頼 / 相互理解、寛容
- ・特別活動 学級活動 よりよい人間関係の形成 など

＜教材制作の意図＞

「恋愛」は子どもたちの日常生活において関心の高い話題であり、人間関係に大きな影響を及ぼす可能性もあるものである。特に、小学校高学年や中学校以降では、恋愛にまつわるトラブルがきっかけとなって人間関係が崩れ、いじめ等の深刻な問題に発展することもある。

ところが、人間関係のあり方を取り上げるような教材で、子どもたちの恋愛が取り上げられることは少ない。様々な教科における授業の中でも、恋愛が主たるテーマとなることは稀であろう。しかし、実際には恋愛における人間関係の難しさに悩んだり、戸惑ったりしている子たちはいるはずである。個別の生徒指導以外に、子どもたちに何か伝えることはできないだろうか（ともに問題について考えることはできないだろうか）。こうした問題意識を背景として、本教材を制作した。

本教材では、仲良し3人組の1人であるアユがある男子と「付き合っている」と告白したことにより、3人の関係に不穏な空気が流れ始める様子が描かれる。こうしたトピックを取り上げることで、この時期における人間関係の難しさや、人がもちうるもやもやした気持ちを客観的に捉える力を育むことをねらいとしている。教材の中のすれ違いは「いじめ」とまでは言えないものかもしれないが、「いじめの芽」ならぬ「いじめの種」にアプローチする教育も重要だと考えた。

また、本教材では2人のあいだのメッセージをスマートフォンのスクリーンショット（スクショ）に撮って、もう1人に送るというやりとりも描かれる。個人宛のメッセージをこうしたかたちで他者にも共有するということは、どれほど認められるだろうか。また、人間関係にどのような影響を与えるだろうか。こうした論点にふれることで、情報モラル教育として授業を行うことも可能である。

＜話し合いのポイント＞

子どもたちの意見について、共感的に聞いたり、発言の意図をていねいに確認したり、それぞれの考え方の違いについてつっこんだりしてみてほしいです。

その際、次のような点についておさえておくと、やりとりが深まると思われます。

- ・なぜ、アユは岡田くんと付き合っていることをこれまで言い出せなかつたのだろう。
- ・これまで話を聞いていなかったカエデは、「被害者」だろうか。
- ・誰かとのメッセージのやりとりをスクショに撮って他者と共有することはよくないことだろうか。  
また、ミユキの問題を解決したいという思いは達成されるだろうか。
- ・恋愛が関わる人間関係と、その他の人間関係のあり方には、違いはあるだろうか。

<授業プラン> (40~50分)

活動内容	補足・留意点等
<p>■導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回学習するテーマについて想像をふくらませる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>仲の良い友達グループはあるか。恋愛が人間関係を壊してしまうこともあるだろうか。恋愛と友情のバランスに困ったことはないだろうか。等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの時間を確保するために、導入の話に時間をかけすぎず、早めに教材の視聴に入れるとよい。</li> </ul>
<p>■マンガ教材の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材「友達と恋愛、どっちが大事？」を視聴する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>視聴後、小グループで感想を話し合う。何名かに発表をしてもらう。</li> <li>内容が伝わりづらかったようであれば、アユ、ミユキ、カエデがどんなことに困っているかていねいに確認をする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想をざっくばらんに話し合ったり発表したりすることで、意見を言いやすい雰囲気をつくりたい。</li> </ul>
<p>■マンガ教材の問題点について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストーリーを追いながら、登場人物の気持ちを想像する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>岡田くんとそれ違ったとき、アユはどのような気持ちだったんだろうか？</li> <li>アユの告白を受けたとき、ミユキとカエデはそれぞれどう思ったのだろうか？</li> <li>カエデはどうして怒っているのだろうか？（嫉妬心だろうか、3人の関係性が崩れる心配からだろうか）</li> <li>ミユキはなぜスクショを撮ってアユに送ったのだろうか？ 送られたアユはどういう気持ちだったのだろうか？</li> </ul> </li> <li>最後の場面のアユの心の声や、3人の表情に注目しながら考えよう。           <ul style="list-style-type: none"> <li>この場面で、3人は何を考えているだろうか。</li> <li>どうして3人の思いはそれ違ってしまっているのだろうか。</li> <li>アユたちは、これからどうなっていくのだろうか。</li> <li>問題が生じるとすれば、そうならないためにできることはないのだろうか。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業スタイルによって、様々な話し合いの仕方を採用して構わない。ペアで話してから全体で共有する、まずはノートに書かせる、思考ツールを活用する、等。</li> <li>できるだけ、一人一人がたくさん話すことができ、たくさんの意見を聞き合えるとよい。問題に対して、様々な見方・考え方があることが知れるとよい。</li> </ul>

<p>■テーマ「友達と恋愛、どっちが大事？」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここまでマンガの問題について考えてきました。「友達と恋愛、どっちが大事？」という話でしたが、みなさんはこうした問い合わせについてどう考えますか。また、こうしたそれ違いにより人間関係が崩れてしまわないようにするために、気をつけられることはあるでしょうか。あるいは、崩れてしまったときに、どうしていったらよいでしょうか。</li> <li>➤ 話をしていなかったアユにできることもあつたのでは。ふだんは仲が良くても恋愛が関わると嫉妬などをすることがある。</li> <li>➤ 正直に気持ちを伝え合う。裏でメッセージのやりとりをしない。いじめに類する行為がなければ仲良しグループにこだわらなくても構わないのでは。等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記「話し合いのポイント」を参考に、話し合いの方向性を想定しつつ、自由に議論ができるとよい。</li> <li>多様な意見を歓迎するが、いじめに類する行為を肯定するような意見（いじめられる方が悪い、いじめられても仕方ない等）に対しては、思いを受け止めつつ、その行為の問題性について適切に理解をしてもらうよう留意する。（「傷つく人が少しでもいなくなるように、何ができるか知恵を出し合いたい」という思いを伝えていきたい）</li> </ul>
<p>■ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業のふりかえりをする。</li> <li>➤ これから的生活や、友達とのコミュニケーションに今日学んだことを活かしてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートに書く、何名かには発表をさせる、等。考えたり話し合ったりしたいことを言葉でていねいにまとめられるとよい。</li> </ul>

（参考）ウェブサイト記載「授業を行う先生へ」

- 本教材シリーズでは、善悪がはっきりしない状況や、つい見落とされがちな問題を積極的に取り上げ、リアリティのある物語として描いています。本教材をとおして、一人一人がいじめゲームのルールを変えるチェンジャーズとなっていってほしいという願いのもと制作をいたしました。
- 教材を見れば、子どもたちからは何か言いたいことが出てくるはずです。子どもたちによる話し合いを中心に授業を進めてください。話し合いの時間をできるだけ多くとれるように、短めの尺の中で問題点を具体的に描いています。すぐに答えが出ないような難問についてねばりづよく話し合いながら、他者への想像力を養っていってほしいです。
- 授業中は、子どもの話を丁寧に聞いたり、もやもやに共感したりする時間を大切にしてほしいです。「こうすべき」という結論を急がず、本音が出されることや、多様な意見が出されること、少数派の意見を丁寧に聞くことなどを大事にしてほしいです。
- オープンエンドで終わることを想定していますが、「本時では多様な考えが出されてよかったです」というだけではなく、「これから自分（たち）には何ができるだろうか」と今後の生活につながるような終末を目指したいと考えています。授業時間内に1つの結論を出す必要はなく、これからチェンジャーズになるためのきっかけを掴んでもらいたいと思っています。
- モデル指導案を掲載しておりますが、クラスや子どもたちの実態に合わせ話し合いが深まるよう、自由に柔軟に授業を展開してください。1つの教材の中に、複数の問題が描かれており、主人公以外の視点から議論をすることが可能な教材もあります。道徳科、特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科等でご活用いただければ幸いです。